

1 評価実施時期 令和5年12月 1日（金）～12月13日（水）

2 評価結果

(1) 評価項目全体	回収率	評価平均値
①職員評価 28人 / 36人 (77.7%)	3.13 (前年比-0.1)	
②保護者評価 589人 / 658人 (89.5%)	3.15 (前年比+0.04)	
③生徒アンケート 578人 / 658人 (87.8%)	3.33 (前年比±0)	

(2) 評価項目別

注1 (%) は「そう思う、ややそう思うの割合」

注2 ●は前年度より上昇、▼は前年度より下落

評価項目	職員	保護者	前年度	生徒
1 学校全体として落ち着いており、地域の中学校として安心できる。	▼3.1	▼3.4(96%)	3.5(96%)	●3.2
2 学校の重点目標「あいさつ・清掃・歌声等の学校文化を大切にする」「学力向上」「地域行事・諸活動での社会性の育成」や、「家庭学習ノートの推進」等、指導に力を入れている。	▼2.6	3.1(83%)	3.1(83%)	3.3
3 五中は、ルールや時間を守るなどの社会規範を重視した指導を行っている。	▼2.8	●3.3(90%)	▼3.2(90%)	●3.4
4 五中の授業は規律があり、学習にふさわしい雰囲気の中で行われている。	▼3.1	●3.2(89%)	▼3.1(89%)	▼3.2
5 五中では、基礎・基本の習得をめざした学習指導や工夫が行われている。	3.3	3(77%)	▼3.0(77%)	▼3.4
6 五中の行事（清原祭に代わる行事、学年レクなど）は、適切に計画され、生徒が満足するものになっている。	●3.5	●3.4(86%)	●3.2(86%)	●3.6
7 五中では、生徒が満足する部活動が行われている。	▼3.3	●3.2(83%)	3.1(83%)	3.5
8 五中は、清掃・整頓が行き届き、教育の場にふさわしい環境が維持されている。	▼2.6	●3.4(92%)	3.3(92%)	3.4
9 五中の職員は、生徒や保護者にていねい・誠実に対応している。	▼3.6	3.4(91%)	3.4(91%)	●3.5
10 五中の事務室の窓口、電話の対応はていねいに行われている。	▼3.6	●3.6(95%)	▼3.5(95%)	▼3.6
11 五中は、何かあれば相談しやすい学校だ。	▼3.2	3.2(85%)	3.2(85%)	3.1
12 学校の各種たよりやホームページなどから、学校の情報、様子が伝わってくる。	●3.5	●3.4(87%)	●3.3(87%)	3.3
13 学校はいじめなどに対して適切に対処している。	▼3.7	3.1(85%)	3.1(85%)	●3.3
14 学校は、自分の考えをしっかりと持ち、わかりやすく伝えられる子どもに育てようと務めている。	3.3	●3.1(81%)	3.0(81%)	3.4
15 お子さんには家庭学習の習慣が身についている。	2	2.5(52%)	▼2.5(52%)	▼2.9
16 おさんは学習内容をおおむね理解し、意欲的に勉強している。	2.6	2.6(55%)	▼2.6(52%)	3
17 おさんは身だしなみを整え、ルールや時間を守る生活をしている。	2.8	▼3.1(82%)	▼3.2(82%)	3.4
18 おさんは学校の行事に意欲的に参加している。	3.5	3.3(86%)	3.3(86%)	▼3.5
19 おさんは部活動に積極的に参加して、活動に満足している。	▼3.2	3.2(81%)	▼3.2(81%)	3.5
20 おさんは五中の給食に満足している。	●3.3	●2.6(53%)	2.5(53%)	●3.1

分析

- 保護者アンケートから「そう思う、ややそう思う」と評価を得ているのが、項目 1, 3, 4, 8, 9, 10 といえる。学校全体の落ち着いた雰囲気や規範意識、環境整備等に対して 8 割以上の保護者に肯定に捉えられていると言える。
- 生徒アンケートで前年度よりポイントを落としているのが項目 4, 5, 10, 15, 18 であるが、いずれも評価平均値が 3.4~3.6 と高かったものが、0.01~0.1 下がっている。コロナ禍で周囲と関わらず静かに過ごすことを強いられていた二年間は、市内他中学校でも非行傾向や問題行動がなりを潜め、生徒指導上非常に落ち着きを見せていた。今年度は通常の活動ができるようになり、五中ではそこまでの極端な変化はないものの、遊びやふざけの中で起きるトラブルも出てきた。これらに対し、学年全体での指導等を行っていることで、自分の事ではなくても、トラブルを耳にする件数が増えていることが、生徒たちのトラブル認知件数を増やしているとも考えられる。また、行事が実施できるようになった分、前年度と比較すると教職員の多忙化が避けられず、じっくり話を聞く時間や丁寧な対応が仕切れなかった側面があったのかも知れない。これからも改めて丁寧かつ個別最適な指導や対応を職員全体で心がけていく必要があると考える。
- 全てのアンケートで評価平均値が最下位となっているのが、家庭学習の習慣である。家庭学習習慣の獲得については、大きな課題として捉える必要がある。学校全体として家庭学習に対する取り組みを保護者ととともに進めていくことが重要だと考える。
- 職員、保護者、生徒ともに低位となっている学習内容の理解についても同様で、新学習指導要領による教育課程のもと「育むべき資質・能力」を意識した「わかる授業」「主体的・対話的で深い学び」が進むよう、研修及び授業改善に努めていきたい。
- 全てのアンケートで評価平均値が下位となっているのが、給食の満足である。一緒に喫食をしている教職員の満足度は高いことから、好き嫌いがあまりない大人とは、満足の感じ方に差が大きいと考える。家庭では子どもが好きなメニューを作ることが多いし、嫌いな食材を敢えて食べさせることは少ないのではないだろうか。学校給食では子どもたちに比較的人気のない食材であっても、色々なメニューや味付けを工夫して「食育」をすることが大切だと考えている。結果として、好きでないものや食べたことがないものに対して拒否感が生まれ、低いアンケート評価につながってしまうと考えられる。残菜の片付け時には、一口だけでも挑戦するように声かけを続けているが、全く手をつけずに残す生徒はなかなか減らない。来年度も保護者の給食試食会を開催し、五中の給食をよりよく知っていただく機会を設定し、保護者と子どもたちの「食育」について取り組んでいきたい。